

ヨルイチ盛大に開催

五日市支店は8月30日、「第20回ヨルイチ」に参加しました。

ヨルイチは、五日市街道の宿場だった五日市の「市」を再現することで、地域の活性化を図るイベントです。2003年から始まり、今年のスローガンは「リベンジ」。

昨年は台風の影響で中止となりましたが、今年は記念すべき節目を盛大に祝いました。

同支店前では、職員が地元産のショウガや生ビール、ジュース、ポップコーンを販売し、早々に完売となりました。今年は新たな試みとして「ガラポン抽選会」を実施し、豪華賞品が当たると来場者から喜びの声が上がりました。

伝統ショウガを販売

東秋留支店は9月9日、地域の祭りに合わせて支店前で近隣の農家が育てたあきる野産のショウガを販売しました。

例年は200束近く販売するところ、今年は7、8月に雨が極端に少なかったことからショウガが育たず、やっと70束を集めて販売しました。

ショウガは同支店のある二宮地区の二宮神社で開催される、秋季例大祭「生姜祭り」の縁起物で、まつりで販売されるショウガを食べると無病息災・厄除けになると信じられています。

遠藤弘之支店長は「地元産のショウガを楽しみにしている地域の皆様に少しでも提供できてよかった」と話しました。



人気のショウガ販売

東秋留支店 市倉 裕子



支店前でのヨルイチ出店

五日市支店 西野 眞平

園児ダイコン種まき

日の出町の農業委員会は9月10日、同町役場近くの畑で町内の幼稚園・保育園児を対象としたダイコンの種まき体験を開きました。

日の出支店は種や資材の提供を行い、当日は農業委員や町役場職員と共に現地で作業のサポートを行いました。参加した園児たちは、初めての畑に少し緊張し、土の感触に驚きながら一粒ずつ丁寧にダイコンの種をまきました。

岡野剛支店長は「将来、農業の大切さや地元の食材の魅力を理解するきっかけになればうれしい」と話しました。

協力して稲刈り

あきる野市立屋城小学校の5年生33人は9月26日、同市の山本典宏さんの指導のもと、もち米「マンゲツモチ」の稲刈りを行いました。多西支店と東秋留支店の職員は次世代を担う地域児童に食への意識・関心を養ってもらうため、田植えから稲刈りまで協力しています。

児童たちは山本さんから刈り方や束ね方を教わり、鎌を使って稲を刈り取り、束ねました。稲架掛けにする作業の中では、取りこぼした稲穂を一つ一つ丁寧に拾いました。児童たちは「稲刈りはチクチクして大変だったけど楽しかった」と話しました。



稲刈りを指導する山本さん(写真中央)

多西支店 一瀬 星和



ダイコンの種をまく園児ら

日の出支店 小峰 一樹